

科目名 (Subject)	異文化コミュニケーションの基礎 2		
単位数 (Credits)	2 単位	開講時期	後 期
担当教員名 (Name)	Dr. Kaori Sasaki (PhD in sociology)	研究室番号 (Office)	427
Office Hours	Wednesday (2 nd period; 4 th Period) 水曜日 (2講義,4講義)		
<p>1. 授業目的・方法 (Course objective and method)</p> <p style="text-align: right;"><i>This module is basically taught in the English language!</i></p> <p>この授業の目的は以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 異文化間コミュニケーションに含まれる社会/政治/経済/歴史的な問題を多角的な視座にたって把握 異なる文化や社会的な背景をもつ人びととの人的な交流(ビジネスの交渉を含めて)を円滑に行うための知識や技法の習得。 自らの文化を相対化して傾聴・発話する力の涵養。 <p>具体的には三つの目的を持った方法論からその目標の達成を試みます。</p> <p>第一に、人びとの間に共有されている暗黙の考え方や規範(tacit knowledge) —社会的にはハビトゥス(habitus)と呼ばれる個々人が社会・文化的な環境要因から習得し、無自覚に実践している慣習的な行為、知覚、思考、価値観、身体作法— に起因するコミュニケーションの諸問題を議論します。</p> <p>第二に、表面的な英語言語の国際化への理解に留まらない身構えを身に着けます。すなわち「英語圏」と言われる地域の多様性と差異を、地政学/歴史学的な文脈 —過去の大英帝国と植民地の関係; モンロー主義以降のアメリカ合衆国と南米の関係; 第二次大戦後のアメリカ合衆国と中南米、アフリカ、東アジアの関係— の視点から考えます。</p> <p>第三に、上記で培った文化的な差異に潜む諸々の「問題」に対する考慮と配慮に基づいて、現下進行するグローバル化と異文化交流や異文化間コミュニケーションの意味と重要性に関して、学生が自らの答えを出せるようにします。特に演習問題や討論形式の講義を通じ、一般的に望ましく、汎用性のあるコミュニケーション技法の習得を目指します。</p> <p>最終的に、英語を使ってコミュニケーションをする意義の複層性を自覚できるようになります。その結果、世界各地で働いたり、グローバル企業(や日本企業)で勤務したりする際に、相互理解の不全や衝突を避け、逆に win-win 関係を築く有用なコミュニケーション能力を育みます。</p> <p>2. 授業内容 (Course contents)</p> <ol style="list-style-type: none"> Introduction (Chapter 1) On Culture 1 – Habitus and Cultural Capital On Culture 2 Critical Reviews on Anthropological insight (Chapters 2-3) Nation State and Culture 1 (Chapter 4-5) Nation State and Culture 2 (Chapter 4-5) Culture, Identity and Invented Tradition Culture, Identity, and Ethnicity in the global-era Representation of Culture 1 – On Orientalism Representation of Culture 2: On Subalterns, Muslim women in particular Representation of Culture 3: On Cultural Politics in Cross-Cultural Communication (Chapter 4): Gender and Culture: On Cross-Cultural Love Romance (Chapter 8) Language, Power and Culture: On post-colonialism and the usage of English language Cultural Capital and Symbolic Power in the Usage of Language (Chapter 9) Cultural Capital and Symbolic Power in the Usage of Language (Chapter 10) Discussion over cultural politics through cross-cultural communication 			

3. 使用教材 (Teaching materials)

使用する教材は配布します。教科書・参考書としては、以下を挙げます。

The course materials shall be provided. The following shall be used as some of the course-work materials.

- Piller, Ingrid (2011) *Intercultural Communication*, UK: Edinburgh University Press
この”Intercultural Communication”は以下の日本語版もあります
 - ピラー, イングリッド (2014) 『異文化コミュニケーションを問いなおす』高橋君江ほか[翻訳] 創元社
- John McLeod (2015) 『Beginning Postcolonialism 英語で読む現代世界の文化・社会・言語 一植民地主義からグローバリゼーションへ』英宝社

4. 成績評価の方法 (Grading)

- | | |
|-------------------------------------|------|
| • 出席率 (Attendance) | 10 % |
| • 授業への参加度 (Class Contribution) | 25 % |
| • 授業中の提出課題 (Assignments) | 20 % |
| • 最終課題 (an Essay and Presentation) | 45 % |

5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)

- **秀 (100-90)** – 講義にとっても積極的に参加をしている。異文化理解と文化の多様性に潜む課題を、具体的で論旨を明確にして述べるができる。英語という言語自体に付随する政治性や歴史性を非常によく理解し、異なる文化圏の影響力を明瞭に示したり、比較したりすることができる。近代国家を前提としたグローバル化時代における、基礎的な社会理論を非常によく理解して、文化的背景の異なる「他者」を、俯瞰の視座を持ち自分の立場を相対化して明確に説明できる。文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する深い理解にもとづき、その諸問題に対して洞察に富む分析、ならびに優れた解決策を提示することができる。
- **優 (89-80)** – 講義に積極的に参加をしている。異文化理解と文化の多様性に潜む課題をわかりやすく述べるができる。英語という言語自体に付随する政治性や歴史性をよく理解し、異なる文化圏の影響力を示したり、比較したりすることができる。近代国家を前提としたグローバル化時代における、基礎的な社会理論をよく理解して、文化的背景の異なる「他者」を、俯瞰の視座を持ち自分の立場を相対化して説明できる。文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する十分な理解にもとづき、その諸問題に対して優れた分析、ならびに有効な解決策を提示することができる。
- **良 (79-70)** – 講義によく参加をしている。異文化理解と文化の多様性に潜む課題を具体的に述べるができる。英語という言語自体に付随する政治性や歴史性を理解し、異なる文化圏の影響力をよく理解している。近代国家を前提としたグローバル化時代における、基礎的な社会理論を理解して、文化的背景の異なる「他者」を自分の立場を相対化して説明できる。文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する十分な理解にもとづき、その諸問題に対して過不足のない分析、ならびに一定の効果をもたらす解決策を提示することができる。
- **可 (69-60)** – 講義に過不足なく参加をしている。異文化理解と文化の多様性に潜む課題について説明することができる。英語という言語に付随する政治性や歴史性を考える意義は理解し、異なる文化圏の影響力を一定以上は理解している。

近代国家を前提としたグローバル化時代における、基礎的な社会理論を大よそ理解して、文化的背景の異なる「他者」を説明できる。文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する過不足のない理解にもとづき、その諸問題に対して論理的な矛盾を含まない分析、ならびにある程度の効果をもたらす解決策を提示することができる。

- **不可(59以下)**— 講義参加の意欲が不十分である。また、異文化理解と文化の多様性に潜む課題の理解も、異なる文化圏の影響力の理解も、英語という言語に関する理解も、不十分である。近代国家を前提としたグローバル化時代における、基礎的な社会理論の理解が不十分であり、文化的背景の異なる「他者」を俯瞰の視座から説明できない。文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する理解が不十分であったり、その諸問題に対する分析と解決策が未熟であったりする。

6. 履修上の注意事項(Remarks)

- 講義は基本的に英語です *This module is basically taught in the English language.*
- 討論形式の講義が採用されます
- グループでの作業と発表が含まれます
- 課題において絶対的な正解も誤答も存在しないので、のびのびと参加して下さい
- 英語力よりも、コミュニケーション力を問うので、積極的に授業に参加しましょう